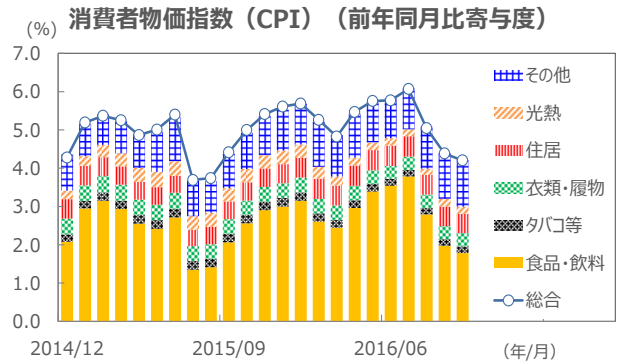


今日のトピック 最近の指標から見るインド経済（2016年11月）

インフレ率低下傾向の中で生産活動が堅調に推移

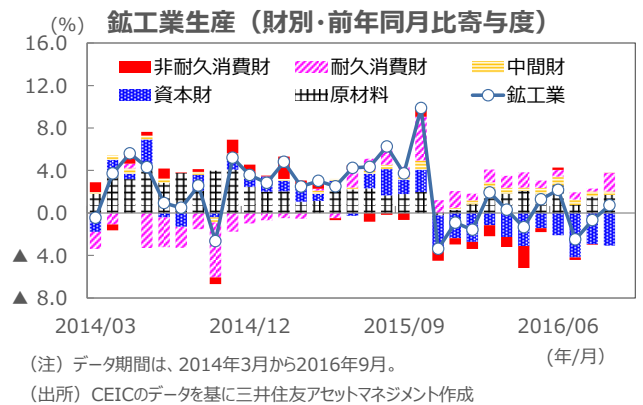
ポイント1 物価は3カ月連続で低下 引き続き食品価格の低下が寄与

- 2016年10月の消費者物価指数は前年同月比+4.2%（9月同+4.4%）と3カ月連続で鈍化しました。
- 食品のインフレ率が前年同月比+3.3%と、9月の同+4.0%から大幅に鈍化したことが主な要因です。



ポイント2 生産はプラスに転換 耐久消費財と原材料が寄与

- 2016年9月の鉱工業生産指数は、前年同月比+0.7%と市場予想の同+0.5%を上回り、8月の同▲0.7%からプラスに転じました。
- 財別に見ると、耐久消費財、原材料、中間財はプラス基調が続いており堅調ですが、資本財は2015年11月以降マイナスが続いています。堅調な消費に牽引され生産は好調なものの、未だ新たな設備投資には繋がっていないようです。



今後の展開 インフレ率低下と好調な消費で景気は拡大へ

- 公務員賃金の引き上げや、モンスーンの順調な降雨による地方所得の増加から、今後も消費を中心に内需は堅調に推移すると思われます。また、政府によるインフラ投資加速で投資が回復し、生産活動は堅調に推移すると思われます。
- RBI（インド中央銀行）は、今後のインフレ低下を受けて利下げを行う可能性があります。消費の拡大による景気の好調に加え、インフレ低下による利下げも予想されることから、インドの株式、債券、為替の堅調さが期待されます。

ここもチェック! 2016年11月14日 **インドの規制・制度改革 高額紙幣廃止、着実に進むブラックマネー撲滅**
2016年10月18日 **最近の指標から見るインド経済（2016年10月）**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。